

福祉士や心理士派遣

いじめ 不登校 各小中で問題解決へ

伊東市の内山義夫教育長は3日、いじめ・不登校対策として新年度、組織的な体制づくりを進めていくと述べた。具体的には、社会福祉士や学校心理士などの有資格者を各小中学校のケース会議に派遣し、専門的な観点から児童・生徒、保護者と関わり、問題解決を図る。市議会3月定例会予算大綱質疑で、公明党（榎田一男氏）の質問への答弁。

市教委 支援員15 ↓ 22人に増

市教委教育指導課によ

ると、外部の社会福祉士

などがケース会議に参加
すること、チームとし

て問題の解決に取り組ん

でいくという。

内山教育長は、特別支

援教育、小学校低学年、
多人数学級などの支援員

を現在の15人から22人に

増員する、とも述べた。

児童・生徒へのきめ細か
な指導や支援体制の構
築で、楽しい生活を送る

ことができる学校づく

りを推進し、問題が起きにくい学校にすることがいじめや不登校対策に通じる、との考えを示した。

同課によると、2012年度の小中学校の不登校は103人、いじめの認知件数は54件。本年度も前年度と同程度で推移するとみているが、問題行動は大幅に減る見通しという。